



【ご挨拶】

この度、「病児保育室あんず」から「市内の保育園」へ感染症の動向を中心に定期的に情報発信することになりました。皆さんの参考になる情報をお伝えできるよう努めていきたいと思ひます。

【感染症だより】

今年も早いもので年末、まさに風邪・胃腸炎のシーズンとなりました。インフルエンザやRSウイルス、ノロウイルスなど、皆さんもテレビやWEB、新聞でニュースを目にされているかと思ひます。しみず小児科・内科クリニックでの秋～冬の感染症動向と、予防対策などをご紹介します。

しみず小児科・内科クリニックで検出された流行性の感染症

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
9月	手足口病	ヘルパンギーナ	溶連菌	水痘	おたふく	—
10月	胃腸炎	リンゴ病	手足口病	アデノウイルス	ヘルパンギーナ	溶連菌
11月	胃腸炎	RSウイルス	溶連菌	リンゴ病	おたふく	水痘

西多摩地区では、すでにインフルエンザで学級閉鎖になった学校も散見されましたが、まだ大流行というところまではなっていないようです。今はインフルエンザよりも、RSウイルスやウイルス性胃腸炎が主流です。インフルエンザやRSウイルスは飛沫・接触によって伝染します。RSウイルスは0歳の乳児がかかると、肺炎や細気管支炎を起こして入院となることが多いウイルスです。0歳児にとっては、インフルエンザよりもRSウイルスのほうが死亡率の高い危険な疾患です。

予防の基本は、「手洗い・うがい」です。「汚れたところは触っていない」と思っているも、ドアノブやエレベーターのボタン、スーパーのかご、不特定多数の人が触れる場所から感染することがあります。また、マスクをしていてもマスクの隙間から侵入することがあります。特に冬場はこまめに「手洗い・うがい」をすることが予防につながります。家に帰ったらまず、手洗い・うがい、洗顔など行いましょう。

文責： 清水マリ子

